

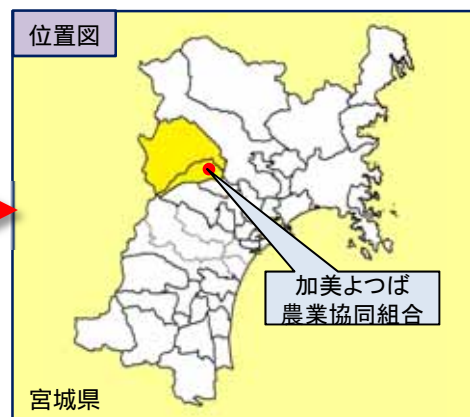
～ 飼料用米専用CEを整備し、生産を効率化 ～

(取組主体名) 加美よつば農業協同組合
(所在地) 宮城県加美郡色麻町・加美町

水稻
(飼料用米)
取組事例

■ 組織のプロフィール

平成11年4月に加美郡内の4JAが広域合併して誕生。宮城県の穀倉地帯大崎平野の西端に位置しており、農業は稲作と畜産が中心。畜産の堆肥を活用した農作物の有機栽培など環境に配慮した農業に積極的に取り組んでいることに加え、奥羽山脈からの水源地であることを活かし「清流の里」として消費者にPRしている。25年3月末の組合員数はおよそ8,150人。



1. 取組のきっかけ

- JA加美よつば管内では、大豆や飼料作物を主体に生産調整を実施してきたが、集落営農組合の設立を機に、平成19年度から飼料用米の取組を開始。
- 平成20年度から山形県の「平田牧場(養豚)」への供給を開始。平成22年以降の農業者戸別所得補償制度の導入により生産者の取組意欲が高まったことや、平田牧場から増産を求められる等の追い風もあり、集落営農組合を中心に飼料用米の作付けが拡大した。

2. 取組の内容と特徴

- 安定した需要先の確保により作付面積が拡大。
平成20年 24ha → 平成25年 280ha
- 年間を通じて均一な品質の飼料用米を随時供給できる体制を構築するため、平成23年度戦略作物生産拡大関連施設緊急整備事業(国庫)を活用し、飼料用米専用のカントリーエレベーター(総処理量 2,236 t)を新設。これまで複数のライスセンターで主食用米の乾燥調製後に対応していた飼料用米の乾燥調製・出荷作業を集約し、効率化。
- 低コスト化に資する取組として湛水直播栽培を一部で導入。
- 飼料用米は飼料メーカー(石巻)から配合飼料に混合して平田牧場に供給。
- 飼料用米に仮払金を支払い。
- バラ出荷体制の構築により流通コストの低減を目指している。



新設したカントリーエレベーター



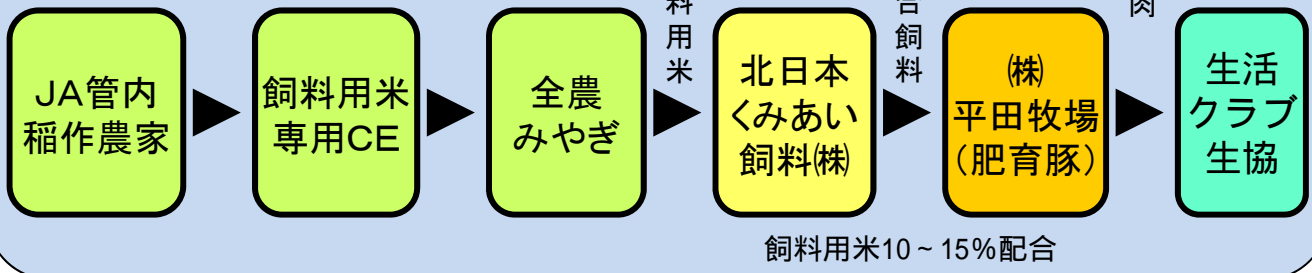
水稻直播の風景

3. 課題と今後の展望

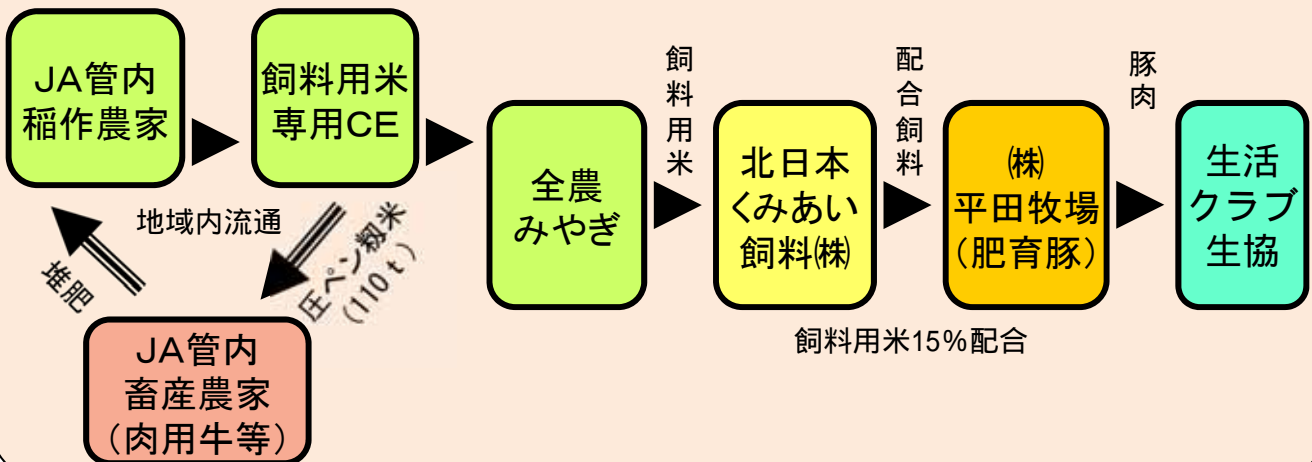
- 平成26年度より飼料用米への数量払いが導入されたことで単位収量の確保が課題となっている。
- 肥育牛への圧パン粃米の給与試験を行っており、この試験結果を基に圧パン粃米の普及を推進し、平成27年における110トンの給餌を目指している。また、乳牛への稲ソフトグレインサイレージの給与試験も実施しており、更なる取組の拡大を図っている。

参考資料 [加美よつば農業協同組合]

～ 現在の流通 ～



～ 平成27年の流通イメージ ～



肥育牛への圧ペン粗米の給与及び地域内での資源循環への取組

